

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2774401232
法人名	有限会社 ローズマリー
事業所名	グループホーム みんなの家
所在地	〒536-0021大阪府城東区諏訪2丁目8番4-604号5. 6階 (電話) 06-6961-3133

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年1月21日	評価確定日	平成21年4月1日

## 【情報提供票より】(平成 20 年12 月16 日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 2 人, 非常勤 13 人, 常勤換算 6.5 人	

## (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	6 階建ての	5 階 ~	6 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 294,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食		昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

## (4)利用者の概要(12 月16 日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 72 歳	最高 95 歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 仁和会 和田病院 ・奥田内科 ・くろだ歯科医院
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に立地するマンションの5. 6階を改修して住み易く使い易いように間取りや設備がなされ、安全面も万全に整えられているホームです。玄関には手作りの表札が掛けられ、ドアを開けると温かな家庭の雰囲気の利用者や職員の笑顔からすぐに伝わってきます。離職者も無く、利用者と馴染みの関係が築かれており、管理者をはじめ、全職員は熱い思いを持ちながら話し合いを重ね、質の高いケアに取り組まれています。ターミナルケアにおいても連携体制がしっかりとなされ、細やかな記録や情報の共有は高く評価できます。また、地域との関係においても、毎日の散歩で近所の方と交流を図ったり、管理者が老人会で認知症についての講義や相談に乗るなど地域に根ざしたホームとなっており、利用者の地域の中での暮らしが実現されています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点については、職員間で話し合いながら、勉強会等を通してケアの実践に取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員全員の意見を聞きながら管理者がまとめて作成しています。自らの改善点を把握する機会になり、改善計画を立てて実行に移されています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、老人会の方、民生委員、近所の方が参加する運営推進会議が2、3ヶ月に一度開催されています。行事報告や現状報告を行い、地域の情報を得たり、ケアについても話し合いながらサービスの向上に向けて活発な意見交換を行っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪の際、ゆっくり時間を設けて家族からの要望や意見、苦情等を聞いて、その都度、対応しています。意見箱を設置し、重要事項説明書にも苦情窓口が記載されています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人会の活動、幼稚園の行事、地域の夏祭り等に参加したり、近所のお店に買い物に行ったり、地域のボランティアがホームに来られており、毎日の散歩を通して近所との馴染みの関係が築かれています。また、管理者は地域の高齢者の生活面での不安や悩みの相談に応じています。さらに、草抜きや掃除等、地域に役立つような取り組みもなされており、地域に密着したホームとなっています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分の居場所となる環境をみんなで作る事を念頭に置きながら、「みんなで作る、ぬくもりのある家」という理念を開設当時より掲げられている。地域密着型サービスとして位置付けられた際に再検討し、「地域に溶け込み」という言葉を付け加えられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設からの理念の思いは、日々のケアの実践の中でも行われている。ケア会議、勉強会等を通じて理念の確認は必ず行い、管理者の思いだけでなく、家族、職員の思いとして意見を出してもらいながら職員全員が理念の実践を意識しながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会の活動、幼稚園の行事、地域の夏祭り等に参加したり、近所の店に買い物に行ったり、地域のボランティアがホームに来られており、毎日の散歩を通して近隣との馴染みの関係が築かれている。また、管理者は地域の高齢者の生活面での不安や悩みの相談に応じている。さらに、草抜きや掃除等、地域に役立つような取り組みもなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、自己評価は職員の意見を聞きながら管理者がまとめて作成している。評価は自らの改善点を把握する機会になり、改善計画を立てて実行に移されている。前回の改善点については、職員間で話し合いながら、勉強会を通してケアの実践に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、老人会の方、民生委員、近所の方が参加する運営推進会議が2、3ヶ月に一度開催されている。行事報告や現状報告を行い、地域の情報を得たり、ケアについても話し合いながらサービスの向上に向けて活発な意見交換を行っている。		

グループホームみんなの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の担当者とは運営推進会議の議事録や事故報告書を持って行ったり、グループホーム管理者会議を通して交流されており、気軽に相談出来る関係が構築されている。また、安心サポートからの利用者の紹介もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪の際、ゆっくり時間を設けて日頃の様子や健康状態等を細かく伝えたと共に毎月請求書と一緒におこづかい帳と個別の手紙や写真を添えて送付している。また、年6回、日頃の生活や行事案内等を「みんなの家通信」便りでも報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪の際に家族からの要望や意見等を聞くようにしており、その都度対応をしている。意見箱を設置し、重要事項説明書にも苦情窓口が記載されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者も無く馴染みの関係でケアがなされている。職員は目標を持ってケアにあたり、また振り返る機会を持ち、管理者と話し合っている。新しい職員が入った場合は、利用者とのコミュニケーションを取ってもらい、流れを知ってもらいながら徐々に馴染めるように支援している。また管理者と面談する機会を設けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修や認知症介護実務者研修など、出来るだけ参加する機会を作っている。また、ホーム内では年間計画を立てて勉強会を実施している。仕事をしながらの中の気付きから、ロールプレイングによるホーム独自の体験的に研修を実践し、終了後は内容についてのアンケートを取り、管理者からフィードバックを行っている。	○	外部研修に参加した際は、報告書を作成し、職員間で閲覧されているのみである。今後は会議等において参加した職員から発表をするなどの伝達研修の実施が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センターが主催する研修が実施されており、研修の参加を通して情報交換や相談をしながら交流を図っている。近隣のデイサービスの職員による見学もある。	○	管理者だけでなく職員も地域の同業者と交流が持てるように、積極的に働きかける事が期待される。

グループホームみんなの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に見学に来て頂き、リビングでゆっくりお茶を飲んでいただき、状態を把握する場としており、またセンター方式を活用して把握している。利用者の状況に応じて家族の協力を得ながら、徐々に馴染んでいくように配慮し支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の尊厳を大切にし、センター方式の中から興味のあることを引き出しながら料理方法を教えて頂いたり、利用者の出身地の風習を教えて頂いたり、昔話しながら関係を築いている。生活の中の経験からも多くのことを学ぶ機会となっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、以前の暮らしからの情報を得て、希望や意向を聞いたり、日常の会話や行動から思いを把握するように努めている。また、どの職員が見てもわかるように日々記録に残している。意思の表現の困難な方には家族からの情報や表情、仕草等から思いをくみ取り把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用し、アセスメントにて利用者や家族の意見、要望を聞き、日々の記録やかかりつけ医からの情報も得て、カンファレンスで話し合った内容を基に一人ひとりに合った介護計画が作成されている。また、ホーム独自のケア指示書を活用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回作成されており、1ヶ月に1回カンファレンスを実施し、モニタリングを行なっている。状況に変化があった場合には、現状に応じた介護計画に随時、変更し、家族にも状況説明をしている。		

グループホームみんなの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて劇場に一緒に行ったり、買物や外食をしたり、個別に外出する支援を行っている。今後、生き生き体操教室への参加を検討するなど一人ひとりの状況や要望に応じて柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談しながら、かかりつけ医を決めている。提携医は月1回の往診があり、24時間の対応も可能である。歯科医は週に1回口腔ケアに来られている。また、鍼灸院が週3回来られている。職員である看護師により日常の健康管理と医療との連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームの対応を説明し、日常会話等で本人の希望を聞くようにしている。実際に看取りを経験され、家族やかかりつけ医、看護師、職員全員で細やかな時間状況での容体や表情の記録も残しながら情報を共有し、支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーに常に配慮し、対応している。実際の気になる言動や対応等を実践体験の中から気づいて知ってもらう勉強会をしている。個人情報に関する資料等は事務所の書庫に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな一日の流れはあるが、利用者が自分のペースで暮らせるように支援している。職員間でも外出希望や、個別対応などについて話し合い、実践しながら希望を優先した対応に努めている。		

グループホームみんなの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を見て、利用者に相談しながら希望に添うような工夫をしている。食事は職員と食卓を囲みながら食べられており、食事の準備、片付け等も出来る事を職員と一緒にしてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入れる体制が取られており、なるべく希望に添うように支援している。入浴拒否の方には無理強いをせず、タイミングや声かけに工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の掃除や後片付け、洗濯干しやたたみ等の他、毎日の散歩時の体操でリーダー役でお手本になって頂いたり、屋上でのプランターに花や野菜の植え付けや水やり、カレンダーの日めくりをして頂き、役割や張り合いを持って生活して頂けるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの体調や希望に添って無理強いすることなく、利用者の日課となっている近くの公園への散歩に行っている。お花見や運動会等の行事には手作りのお弁当を持って外出したりと楽しみの事の支援をしている。その他、買い物や行事等でも一人ひとりに合わせた外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないケアが実践されている。玄関には安全のためのセンサーを取り付けて外出を察知し、利用者が外に出られる場合は出来る限り一緒に外出するように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の指導の基、避難訓練を実施し指示を仰いでおり、またホーム独自でも訓練を行い、職員は避難経路、避難場所の周知を図っている。マンションの住人の協力を得る働きかけも行っている。		

グループホームみんなの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや栄養バランスが考えられた献立を基に食事が提供されている。食事量や水分量は、時間を個々にチェックし把握に努めている。一人ひとりの状態に合わせて、トロミやきざみの対応も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	マンションを改装して建てられたホームですが、限られた空間を上手く利用し、玄関を入れれば下駄箱の上に花が生けられ、作品や写真も飾られ、また、ゆったりとくつろげるソファが置かれるなど家庭的な空間となっている。ホーム内には手作りの物が多く温かみがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの生活や好みに添った居室になっており、畳の部屋もあり、個々の使い慣れた家具やテレビ、時計、大切にしている仏壇や写真、人形等思い出の物を持ち込まれている。利用者それぞれの個性を活かした居室になっており、居心地良く過ごされている。		